Windows VISTA/Windows XP
カッティング・アプリケーションソフトウェア

シンプルスタジオ

取扱説明書

株式会社ミマキエンジニアリング

D201922-11

目次

この度は弊社製品をお買いあげいただきまして、誠にありがとうございます。
Simple Studio は､他のカッティングソフトウェアにない直感的な操作と安定したカット環境をご提供いたします。

システムとソフトウェアの必要条件

Simple Studio をインストールして使用するには、次の条件が必要です。

ＯＳ	Windows Vista/XP
パソコン	Pentium Celelon プロセッサ 1GHz 相当以上
メモリ	Windows Vista 1GB / Windows XP 512MB 以上
ＨＤＤ	20GB 以上の空き容量
スキャナ	TWAIN ドライバ対応品
モニター	最小解像度 1024×768 ピクセル以上
プリンタカッター	CJV30 シリーズ・TPC-600
RIP ソフトウェア	RasterLinkPro4 シリーズ
カッティングプロッタ	CG-FX シリーズ・CG-75ML・CG-60st・CG-60SR・CG-60SL

ご注意

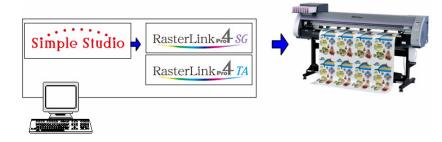
- 本書の一部､または全部を無断で記載したり､複写することは固くお断りいたします。
- 本ソフトウェアを他のディスクにコピーしたり（バックアップを目的とする場合を除く）、実行する以外の目的でメモリにロードすることを固く禁じます。
- 株式会社ミマキエンジニアリングの保証規定に定めるものを除き、本製品の使用または使用不能から生ずるいかなる損害（逸失利益、間接損害、特別損害またはその他の金銭的損害を含み、これらに限定しない）に関して一切の責任を負わないものとします。
  また、株式会社ミマキエンジニアリングに損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。一例として、本製品を使用してメディア（ワーク）等の損失やメディアを使用して作成されたものによって生じた間接的な損失等の責任負担もしないものとします。

システム構成

Simple Studio と、弊社製プリンタカッター（CJV30 シリーズ、TPC シリーズ）により、シール、ステッカー作成が簡単にできます。プリンタカッターへの出力は弊社製 RIP ソフトウェア　RasterLinkPro4 シリーズが行います。Simple Studio で作成した印刷データとカットデータを RasterLinkPro4 に読み込ませ、RasterLinkPro4 で出力操作することで、プリンタカッターでの出力が可能になります。

また、Simple Studio は弊社製カッティングプロッタ（CG シリーズ）またはプリンタカッターに直接カットデータを出力することができます。この場合、RasterLinkPro4 での操作は不要です。

プリント＆カットのシステム構成

PC 一台の構成

複数 PC をネットワークで組む構成

カットのみのシステム構成

この取扱説明書について

本書はSimple Studioの使い方とその機能について説明しています。

本文中の表記について

メニュー・アイコンに関する項目は［ファイル］メニューのように［　］で表記します。
ダイアログに表示するボタンは【ＯＫ】のように【　】で表記します。
各ダイアログボックスは『用紙設定』ダイアログボックスのように『　』で表記します。
その他の画面上の表記は「線幅」のように「　」で表記します。
キーボードの表記はShiftキーというようにで表記します。

特記事項について

ヒント！　Simple Studioを使用する際に便利な使い方、ヒントについて説明しています。

重要！　Simple Studioをお使いになる際に注意していただくこと、または必ず実行していただくことについて説明しています。

⇒　関連した内容の参照ページを示しています。

Chapter 1

インストールの手順

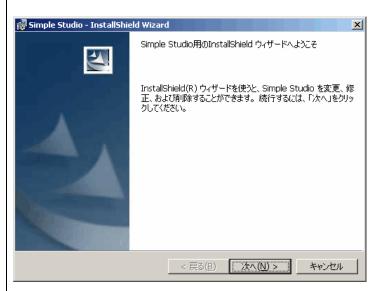
Simple Studio をインストールする

インストール手順

1 パソコンの電源をONにし、Windows を起動します。

2 Simple Studio CD-ROM をディスクドライブにセットします。
以下の画面が表示されます。

3 Simple Studio のインストールを開始します。【Simple Studio セットアップ】ボタンをクリックします。
以下の画面が表示され、インストールの準備がはじまります。

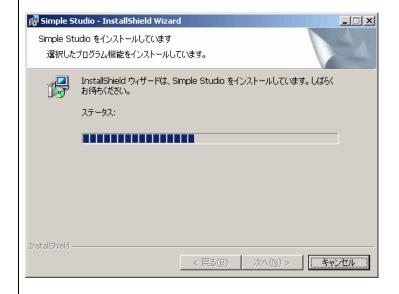
4 Simple Studio のセットアップ画面が立ち上がります。

【次へ】ボタンをクリックします。

5 インストール先フォルダの選択画面が表示されます。

インストール先を変更する場合は変更をクリックします。
このままで良い場合は、【次へ】ボタンをクリックします。

6 インストールウィザードを開始します。

【インストール】ボタンをクリックします。

7 インストールが始まります。

8 インストールを完了します。

【完了】ボタンをクリックします。

ヒント！

プロッタを USB 接続する場合は、USB ドライバをインストールしてください。インストール手順はプロッタ本体に添付している「USB ドライバインストールガイド」を参照してください。

Chapter 2

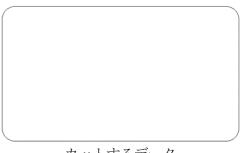
ステッカーを作ってみましょう

ステッカーを作ってみましょう

Simple Studio で作成した図柄をプリントアウトし、トンボにあわせて輪郭をカットして、シール／ステッカーを作ってみましょう。Simple Studio には、プリントデータ、カットデータ毎に編集し、プリントした図柄にあわせてカットする機能を搭載しています。

重要！

本例は、プリンタカッターCJV30 シリーズでの出力を想定しています。事前に、RasterLinkPro4 SG のインストールが必要です。

この章では、新規図面の作成から編集、プリント、カットまで、データを作る上での一通りの手順を説明いたします。
下図の通り、プリントデータとカットデータを分けて作成し、それぞれプリント又はカットを行い、ステッカーを完成させます。

カットするデータ

プリントデータ

機能説明及びメニュー説明は、Chapter 5 と Chapter 6 で後述しています。

データ作成の前に

1 Simple Studio を起動します。

デスクトップ上にある Simple Studio アイコンをダブルクリックします。

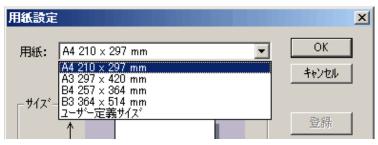
2 『プロッタ設定』ダイアログボックスが開きます。

Simple Studio をインストールし、最初に起動したときのみ表示されます。表示されない場合は３へ進んで下さい。ここでは OK をクリックしてください。

新規図面を作成します

3 「新規作成」アイコン（ ）をクリックすると[用紙設定]ダイアログボックスが開きます。

［ファイル］－［新規］を選択しても『用紙設定』ダイアログボックスが開きます。

4 「用紙」の右にある ▼ をクリックし、用紙を選択後【OK】をクリックします。

ヒント！

任意の用紙サイズを使用する場合は、「ユーザー定義サイズ」を選択し、新たな用紙を登録してください。

では、さっそくデータを作成しましょう

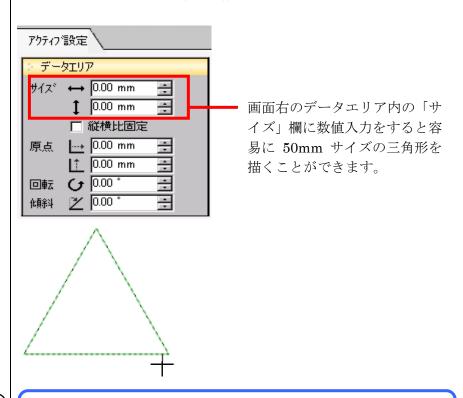
「プリントデータ」タブ（プリントデータ）をクリックし、図面をプリントデータにします。（⇒89 ページ）

正三角形を描きます

1 「多角形作図」アイコン（☆）をクリックし、Shift キーを押しながら任意の大きさにドラッグします。（⇒85 ページ）

このチュートリアルでは、高さ・幅 50mm の三角形を作成します。

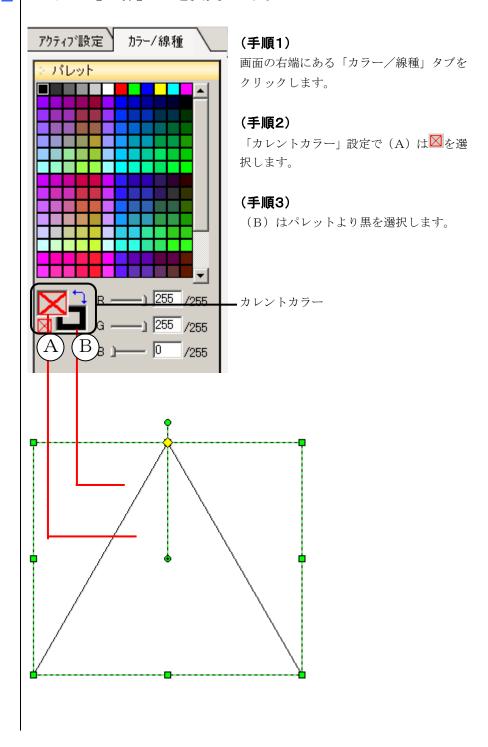
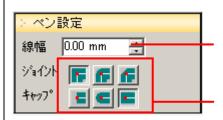
画面右のデータエリア内の「サイズ」欄に数値入力をすると容易に 50mm サイズの三角形を描くことができます。

ヒント！

Shift キーを押しながらドラッグすると正三角形が描けます。

2 「塗り込み」･「線」の色を変更します。（⇒91 ページ）

（手順1）
画面の右端にある「カラー／線種」タブをクリックします。

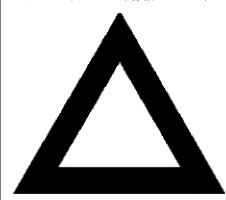
（手順2）
「カレントカラー」設定で（A）は☒を選択します。

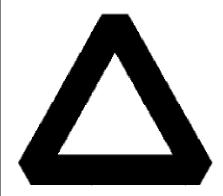
（手順3）
（B）はパレットより黒を選択します。

3 「ペン設定」の「線幅」、「ジョイント」種類を選択します。(⇒91 ページ)

①線幅

線幅を mm 単位で入力指定します。

②ジョイント／キャップ

ジョイントとは曲線の形状、また、キャップは直線の端の形状をいいます。

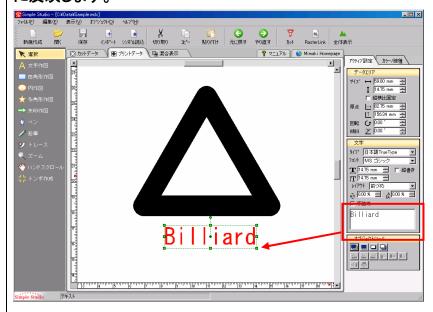
このチュートリアルでは、線幅 13.5mm、ジョイントは「ラウンド」に設定

ジョイント：マイター

ジョイント：ラウンド

ジョイント：ベベル

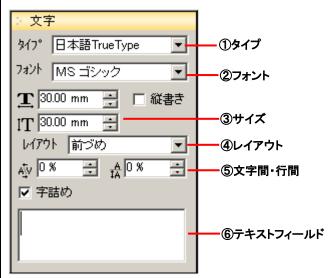
テキストの入力・編集

1 [文字作図]アイコン( )をクリックし、画面上の文字枠を作成する場所でクリックします。

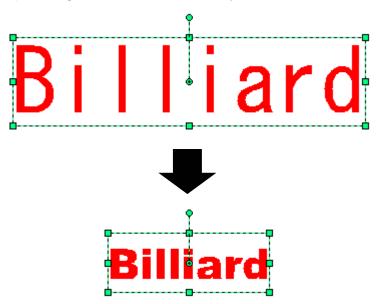
2 「カラー/線種」タブ（ ）をクリックしペン設定の線幅を 0.00mmにします。

3 「アクティブ設定」タブ（アクティブ設定）をクリックし、
「文字」パネルの「テキストフィールド」に文字を入力すると文字枠に反映します。

重要！

フォントによっては、表示されない文字がありますのでご注意ください。

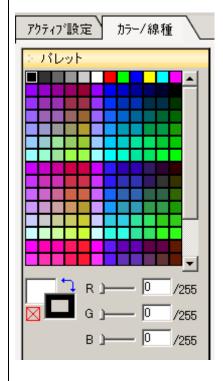
4 「文字」パネルで文字の「タイプ」「フォント」「サイズ」「レイアウト」等を設定します。(⇒82 ページ)

重要！

初期値では文字サイズは 30mm で設定されています。

このチュートリアルでは、①「タイプ」: 欧文 TrueType、②「フォント」: Arial Black、③「サイズ」: 縦方向・横方向 20mm、④「レイアウト」: 中づめ、⑤「文字間・行間」:0%、「字詰め」: チェック有りに設定します。

5 文字の色を変更します。

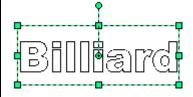
(⇒91 ページ)

「カラー／線種」タブをクリックします。

カレントカラーは塗り込み選択の上、カラーパレット上から任意の色をクリックして下さい。

(手順1)
画面の右端にある［カラー／線種］タブをクリックします。

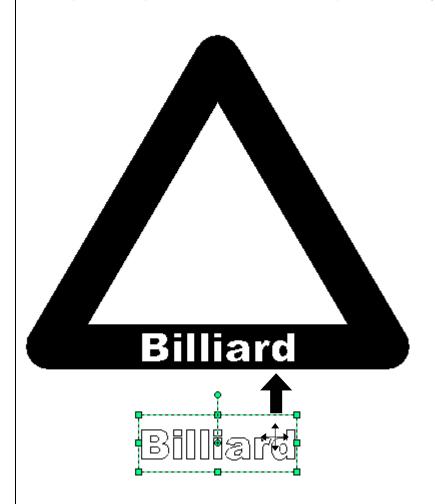
(手順2)
塗り込みはパレットより白を選択します。

(手順3)
線は黒を選択します。

文字の色を変更後の文字オブジェクト

ヒント！

色の変更は、RGB 設定の数値を直接入力することができます。

オブジェクトを移動します

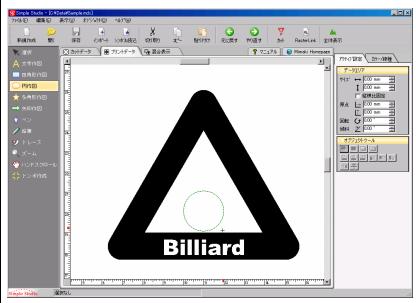
1　移動するオブジェクト枠の上にマウスを移動するとマウスの形状が変わります。マウスの形状が変わった状態でドラッグしてオブジェクトを移動してください。

ヒント！

Shift キーを押しながらマウスをドラッグすると縦又は横への固定移動になります。

円とグラデーション塗り込み

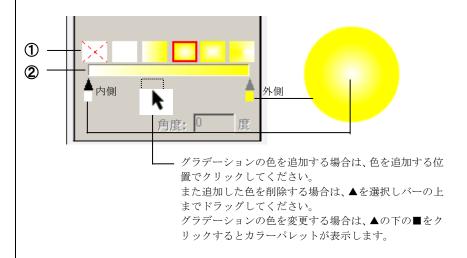
1 「円作図」アイコン( )をクリックし、Shift キーを押しながら任意の大きさにドラッグします。

(⇒85 ページ)

ヒント！

Shift キーを押しながらドラッグすると真円が描けます。

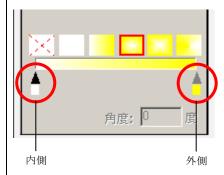
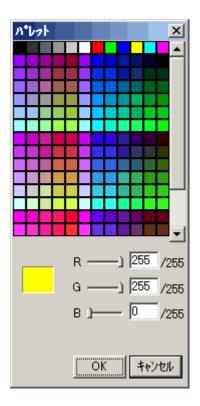
2 グラデーション塗り込みをします。「カラー／線種」タブをクリックして下さい。

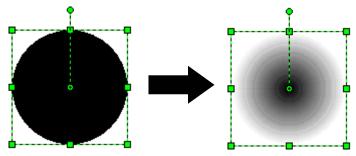
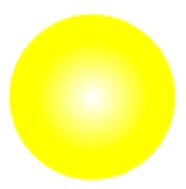
(⇒91 ページ)

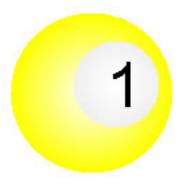
グラデーションの色を追加する場合は、色を追加する位置でクリックしてください。
また追加した色を削除する場合は、▲を選択しバーの上までドラッグしてください。
グラデーションの色を変更する場合は、▲の下の■をクリックするとカラーパレットが表示します。

①種類： 塗り込みグラデーションの種類を５種類から選択します。

②バー： グラデーションの色を設定します。
右端の■をクリックするとグラデーションの外側の色、左端の□をクリックすると内側の色を設定します。

3 **内側の□を選択し、パレットから白を選択します。また、外側の■を選択し、パレットから黄色を選択します。**

■をクリックするとパレットが表示されます。

4 **グラデーションの種類を選択します。**

塗り込みを行う図形を選択し、①から をクリック選択します。

5 【OK】ボタンをクリックします。

6 仕上げに球の中に円と数字を入力します。

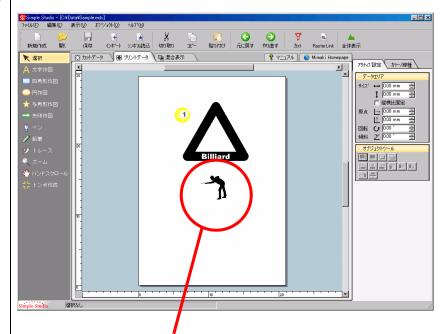
(⇒14.19.22 ページ)
(⇒16 ページ)

外部ファイルのインポート

1 **[インポート]アイコン( )をクリックします。**
または、[ファイル] ー [インポート] を選択します。

2 **ファイルの種類の右にある▼ボタンをクリックし、表示させるファイルの種類を選択します。**

3 **選択した形式のファイルのみが表示されます。**

このイメージデータは、Simple Studio インストールフォルダの中の「ImportSample」フォルダに入っています。

4 インポートするファイルを選択し、【開く】をクリックします。

インポートされた外部ファイルは、画面中央の位置に配置されます。

■インポート可能なファイル形式

ファイル形式	インポート可能なデータエリア
MDX	カットデータ※1／プリントデータ
BMP、JPEG	プリントデータ
WMF、EMF	カットデータ※1／プリントデータ

重要！

※1)カット可能なデータのみインポートします

重要！

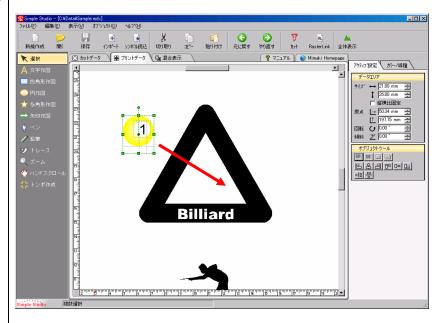
インポートした色は、データを作成したアプリケーションで表示される色と異なることがあります。

「プリントデータ」タブ（プリントデータ）をクリックし、図面はプリントデータにします。

ここまでで制作したオブジェクトを配置し、レイアウトを整えます。

オブジェクトを移動する

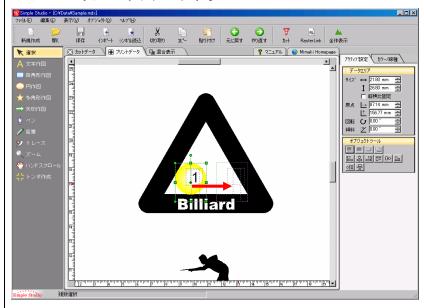
1 **移動するオブジェクトを選択します。**

2 **オブジェクトを選択したまま移動先までドラッグします。**

3 キーボードの矢印キーを押して、移動場所の微調整を行います。

上下左右の矢印キーを１回押す毎に１ドットずつ移動します。

オブジェクトを水平コピーする

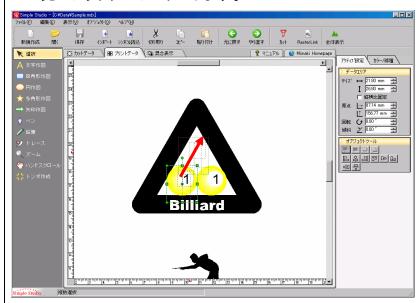
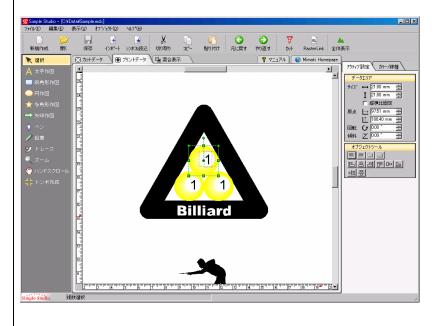
1 **コピーするオブジェクトを選択し、Shift キーと Ctrl キーを押しながらコピー先にドラッグします。**

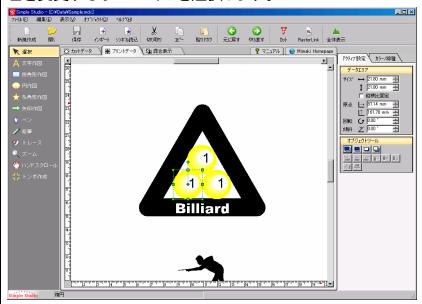
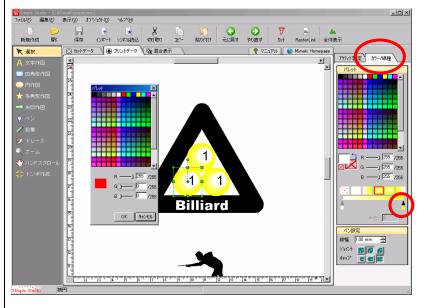
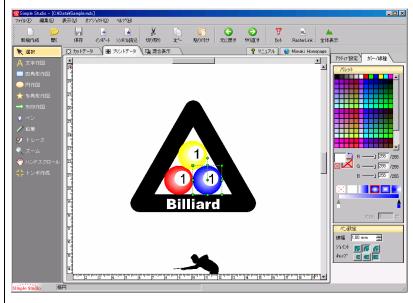
ヒント

コピーのショートカット

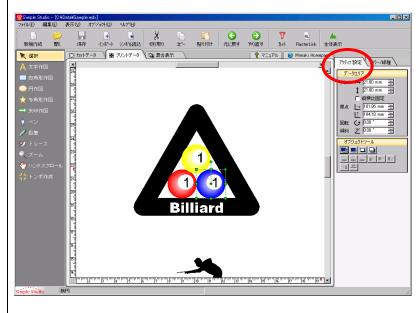
Ctrl キーを押しながらドラッグするとオブジェクトがコピーされます。
さらに、Shift キーも同時に押しながらドラッグすると、縦方向又は横方向に対して、平行な位置にコピーされます。

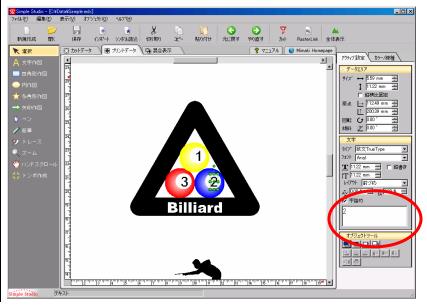
2 **ドロップするとコピー先にオブジェクトが水平にコピーされます。**

通常のコピーの場合は、コピーするオブジェクトを選択し、［コピー］アイコン（　）をクリックし、［貼り付け］アイコン（　）をクリックする方法でもコピーできます。

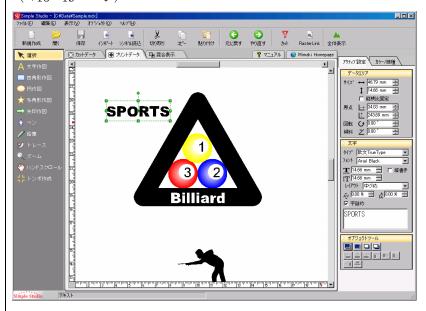
3 もう一度コピーするオブジェクトを選択し、Ctrl キーを押しながらコピー先にドラッグ＆ドロップします。

4 ドロップするとコピー先にオブジェクトがコピーされます。

グラデーションの色を変更する

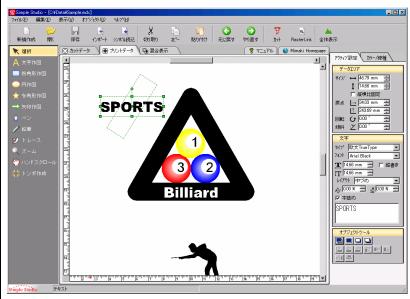
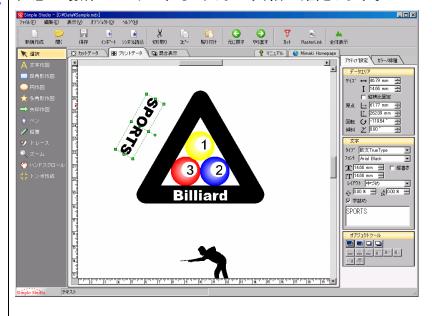
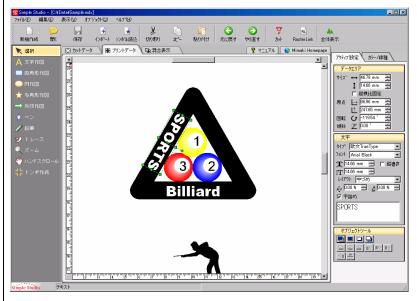
1 色を変更するオブジェクトを選択します。

2 グラデーションバーの右側の をクリックし、パレットから赤を選択します。

3 もうひとつのオブジェクトも同様に青色に変更します。。

文字を変更する

1 「アクティブ設定」タブ（アクティブ設定）をクリックします。

2 変更する文字を選択します。
複数のオブジェクトが重なっている場合は、オブジェクトの上で数回クリックすると、オブジェクト選択が上から順に変わります。

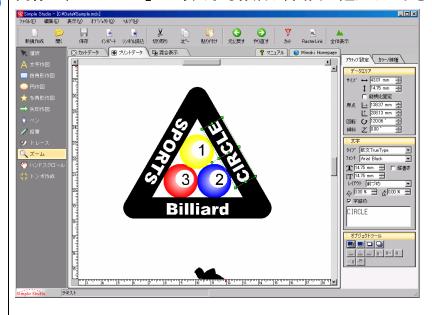
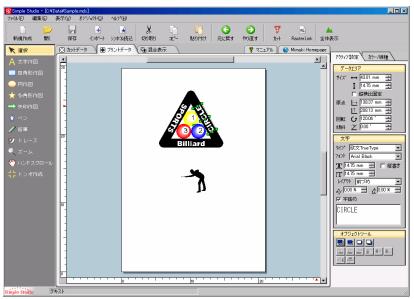
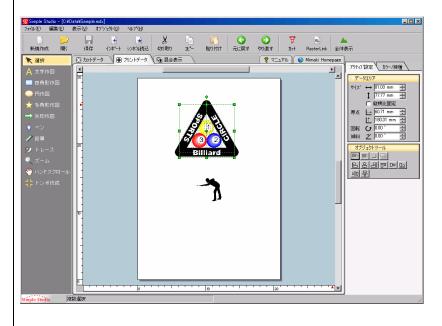
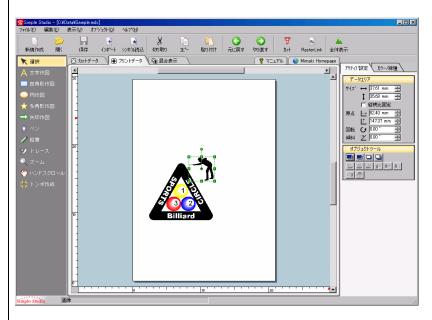
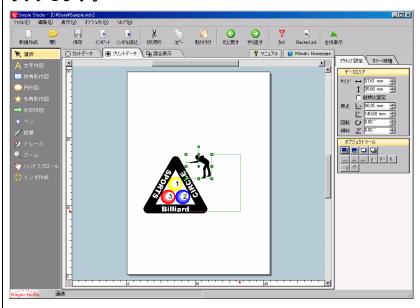
3 「文字パネル」に 2 と入力し、文字列を変更します。
赤色のオブジェクトの数字も同様に 3 と入力し変更します。

文字を回転させる

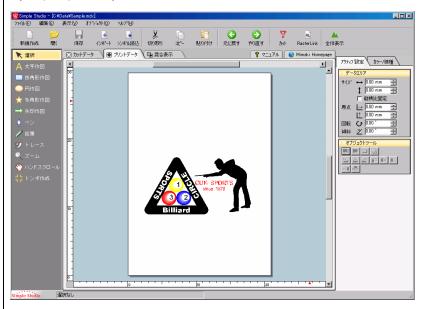
1 元になる文字を作成します。ここでは、「SPORTS」という文字列を作成して下さい。

（⇒16～19 ページ）

2 オブジェクト選択枠の●にマウスをもっていくと、マウスの形状が ↻ に変わります。

3 マウスを回転させる方向にドラッグし、文字を回転させます。

4 任意の場所でドロップすると文字の回転が確定します。

5 「パレット」から白を選択し、移動して下さい。（⇒19 ページ）

6 同様に、「CIRCLE」という文字も作成し、図面に追加して下さい。

オブジェクトをレイアウトする

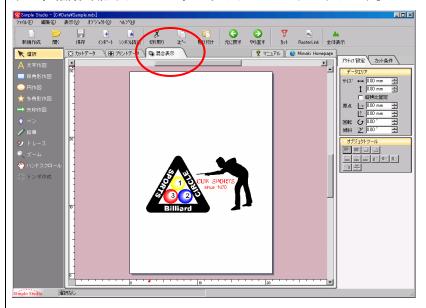
1 [全体表示]アイコン( )をクリックして全体を表示させせます。

2 移動させるオブジェクトを全て選択し、移動します。

3 拡大させるオブジェクトを選択します。

4 オブジェクト選択枠の右下の■をクリックし、拡大するサイズまでドラッグします。

5 「CUE SPORTS」と「since 1870」の文字を作成します。

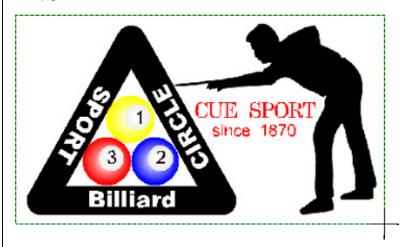
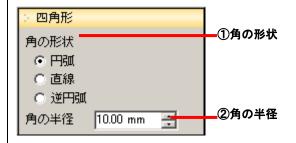
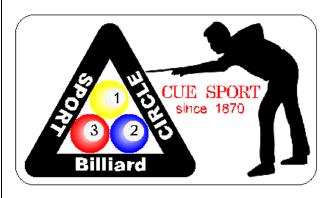
（⇒16〜19 ページ）

6 プリントデータが完成しました。

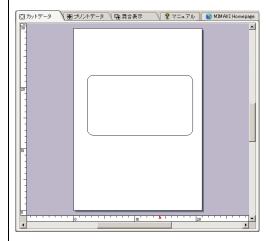
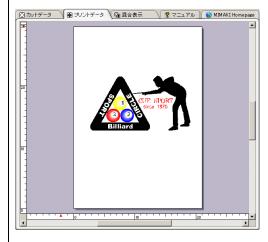
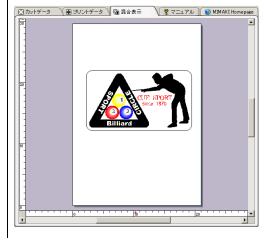
フレームをつけましょう

できあがったデザインをプリント出力し、さらにフレームに沿ってカットするためにフレームをつけましょう。ここで作成するフレームは、実際にカットする大きさ、形で作成します。
今回は、角丸四角にてカットすることにします。

1 「混合表示」タブを選択し、プリントデータ、カットデータともに表示させます。

混合表示タブでは、プリントデータ、カットデータともに表示されますが、編集可能なデータは、カットデータのみとなります。

2 [四角形作図]アイコン( )をクリックし、任意の大きさにドラッグします。

［四角形作図］アイコンをクリックすると、マウスの形状が＋に変わります。

3 「アクティブ設定」タブ(アクティブ設定)の「四角形」パネルで角の形状設定をします。(⇒84 ページ)

4 これでプリントデータ、カットデータがそれぞれ揃いました。

（⇒89 ページ）

カットデータ

プリントデータ

混合表示

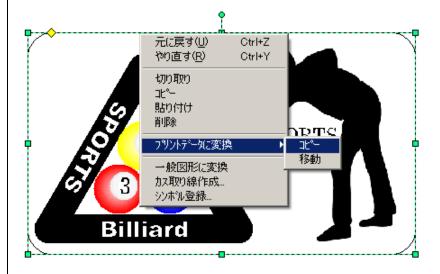
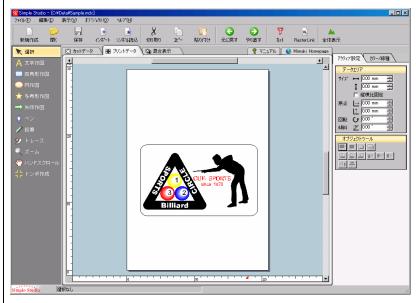
トンボをつけましょう

Simple Studio には、マークセンサー付きのプリンタカッターやカッティングプロッタで軸補正、距離補正が一度に行える「トンボ認識機能」を搭載しています。

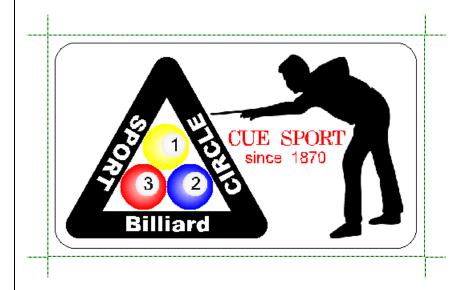
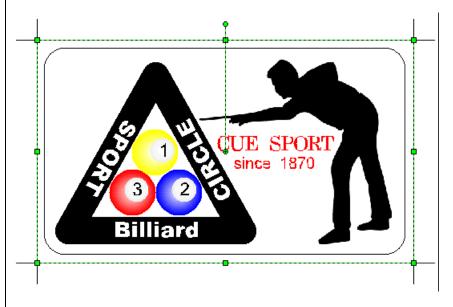
トンボを作成する際は、カットするフレームよりも外側に作成する必要があります。先ほど作成したフレームを一旦、プリントデータエリアにコピーして作業しやすくしましょう。

1 **「混合表示」タブ（混合表示）をクリックし、フレームを選択します。**

2 **1 で選択したフレームの上で右クリックし、[プリントデータに変換]ー[コピー]をクリックします。**

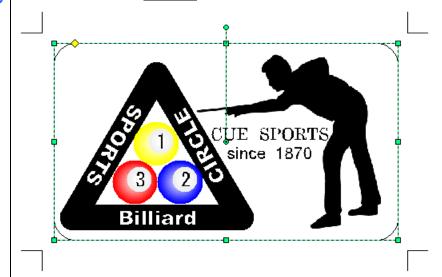
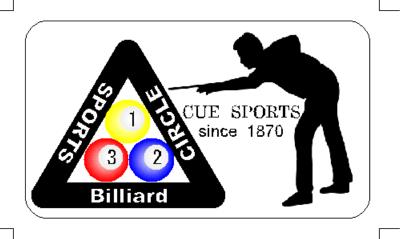
［オブジェクト］－［プリントデータに変換］－［コピー］を選択してもコピーすることができます。

3 「プリントデータ」エリアにフレームがコピーされます。

4 「プリントデータ」タブ（プリントデータ）を選択します。

トンボは、プリントしますので、「プリントデータ」タブをクリックします。

5 [トンボ作成]アイコン( )をクリックし、目安で作成したフレームより大きくトンボ作成範囲をドラッグします。

6 トンボ作成が確定します。

7 ［トンボ作図］の目安のために「プリントデータ」にコピーしたフレームを削除するため作成したトンボを選択し、フレーム上でマウスを右クリックし［アレンジ］－［最背面へ］で移動します。」

（⇒111 ページ）

［オブジェクト］ － ［アレンジ］ － ［最背面へ］ でも同様に移動することができます。

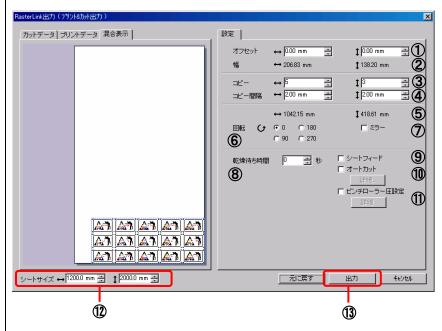
8 フレームを選択し、Delete キーを押して削除します。

9 トンボを作成しました。「混合表示」タブをクリックすると「カットデータ」、「プリントデータ」の両方が表示されます。

ヒント！

プリントデータには、カットラインは表示されません。

10 [保存]アイコン( )をクリックして、データを保存します。
(⇒97 ページ)

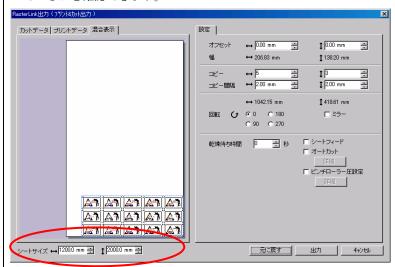
RasterLink へデータを送ります

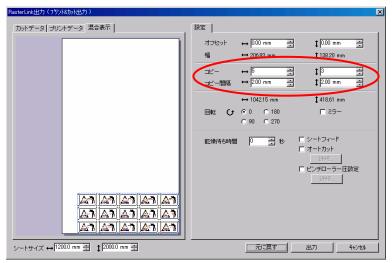
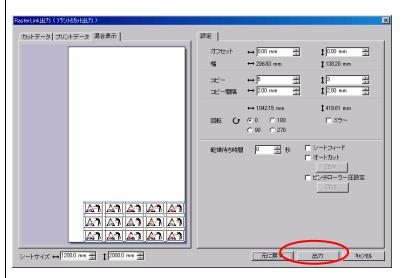
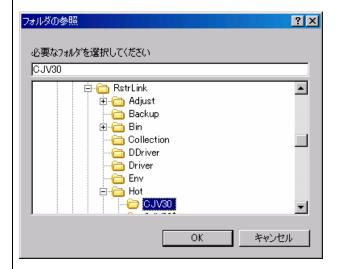
1 [RasterLink]アイコン(RL)をクリックします。

2 「設定」タブが表示されます。

①オフセット	データ全体を移動して、印刷位置・カット位置を変更します。（マイナス値は入力できません。）
②幅	データオブジェクトのサイズを表示します。
③コピー	縦横方向にコピーする数を指定。
④コピー間隔	コピーの際、縦横間隔を指定。
⑤印刷サイズ表示	データ全体のサイズを表示します。
⑥回転	データ全体を回転します。
⑦ミラー	データオブジェクトを鏡で映したように反転します。

⑧乾燥待ち時間	プリントとカットを連続して実行する場合に、インク乾燥のための待ち時間を設定。
⑨シートフィード	カット前にシートをフィードして、データを最後までカットできるか確認します。
⑩オートカット	カット終了後、メディアを裁断します。 詳細設定 ⑭　最後端に付く余白を設定します ⑮　1 行のデータカットが終了するごとに裁断します
⑪ピンチローラ圧	ピンチローラのメディアを押さえる圧力を設定します。 ⑯　プリント時の圧力を設定します ⑰　カット時の圧力を設定します。カット時では、メディアの両端を押さえるピンチローラとメディアの中側を押さえるピンチローラと別の設定ができます
⑫シートサイズ	シートサイズを設定します。シートは印刷イメージタブに表示され、データのレイアウトを確認できます
⑬印刷イメージタブ	データの印刷・カットのイメージを表示します
⑭出力ボタン	RasterLink へデータを送ります

3 シートサイズを入力します。

シートサイズを設定すると、適切なシートが印刷イメージタブに表示されるので、オフセット、コピー、回転などデータをレイアウトするときに、シートに正しく入っているかを確認できます。

4 コピー枚数、コピー間隔を設定します。

「コピー」設定の横、縦方向それぞれにコピーする回数を入力してください。また、「コピー間隔」設定で、コピーとコピーの間の余白を入力してください。

5 「出力」ボタンをクリックします。

6 『フォルダの参照』ダイアログボックスが表示されます。

7 RasteLink のホットフォルダを選択し、【OK】をクリックします。

ヒント！

RasterLinkPro4 ではホットフォルダがプリンタごとに作成されています。印刷条件を変えて複数作成する事が可能です。
詳細は RasterLinkPro4 付属の説明書をご覧下さい。

RasterLink でデータを読み込みます

1 RasterLinkPro4 を起動します。

デスクトップ上にある RasterLinkPro4 アイコンをクリックします。

2 RasterLinkPro4 が起動し、自動的にデータが読み込まれます。

3 RasteLinkPro4 で印刷条件を設定し、プリント＆カット複合プリンタへ出力します。

操作方法は RasterLinkPro4 付属の説明書をご覧下さい。

重要！

このケースではプリントとカットの両方が行われますが、[プリントデータ]のみにデータがある場合はプリントのみが、[カットデータ]のみにデータがある場合はカットのみが行われます。

Chapter 3

カッティングプロッタでカットしましょう

カッティングプロッタでカットしましょう

トンボを認識し、カットする(トンボ連続読み取り機能を搭載したプロッタを使う場合)

Simple Studio を使用すると、トンボ連続読み取り機能を搭載したプロッタ(CJV30 シリーズ、TPC、CG-FX シリーズ、CG-60SR）にセットしてある印刷物のトンボを高速に検出できます。

ロールシートに複数ある同一データを連続カットする方法と、ハザイシート（単票シート）を交換して同一データを連続カットする方法をご紹介します。

この章では Chapter2 で作成したデータを使用します。

ロールシートの連続カット

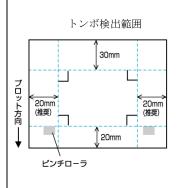
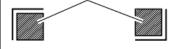
重要！

- トンボデータは、1 セットのみにしてください。
- トンボの形状は統一している必要があります。トンボを作成する際は、Simple Studio のトンボ作成機能をご使用ください。
- 異なる形状のトンボが混在しているとトンボを認識できません。
- 『トンボの周りを赤で塗りつぶす』機能を使用してもメディアやインクの種類によっては認識されない場合があります。
- 出力結果は、XY 方向(縦横)をそろえて作成してください。

1 出力結果をプロッタにセットし、トンボ検出を行います。

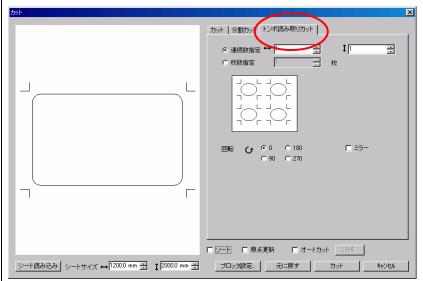
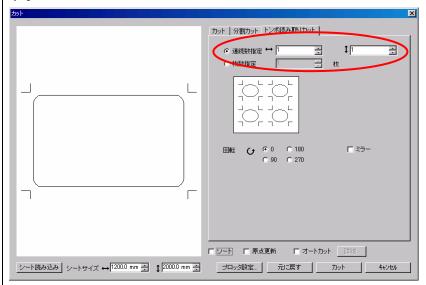
トンボ検出方法の詳細は、「プロッタ」の取扱説明書をご参照ください。

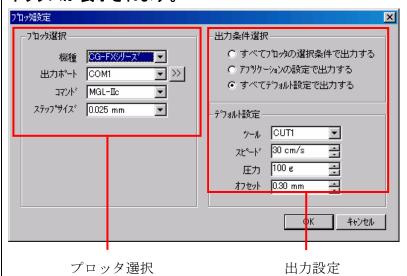
トンボ検出方法（セミオート方法）

トンボ検出範囲

スポット LED の移動エリア

1. プロッタで、「トンボケンシュツ」機能を有効にします。
   サイズ、形状など検出するトンボの設定を行います。
   「トンボ検出個数」は「1 テン」を選択します。
2. プリンタで出力したシートをプロッタに取り付け、シートセットレバーを奥側に倒します。
3. ジョグキーを押し、シート検出を行います。
4. ジョグキーでスポット LED を左図のエリア内に移動します。
5. [ENTER HOLD] ENTER/HOLD キーを押します。
6. トンボを検出し、ローカルモードになります。

2 [カット]アイコン( )をクリックして『カット』ダイアログボックスを表示します。

(⇒60.72.75 ページ)

3 「トンボ読み取りカット」タブを選択します。

4 「連続数指定」にチェックをいれ、縦横方向のカット枚数を入力します。

5 【プロッタ設定】ボタンをクリックすると、『プロッタ設定』ダイアログボックスが表示されます。

プロッタ選択　　出力設定

6 プロッタ選択の設定は、プロッタの設定とあわせます。

ＣＧ側でのプロッタ設定は、取扱説明を参照してください。

すでに設定済みの場合は 10 へ進んでください。

7 「出力設定」の条件を設定します。

出力条件を設定します。

「すべてプロッタの選択条件で出力する」

　　プロッタで設定されたカット条件を使用します。

「アプリケーションの設定で出力する」

　　オブジェクトごとに設定したカット条件を使用します。

　　オブジェクトごとのカット条件が”指定なし”の場合、

　　　CJV/TPC シリーズ ：　プロッタで設定されたカット条件を使用します。

　　　CJV/TPC シリーズ以外 ：　本ダイアログの「デフォルト設定」の条件を使用します。

「すべてデフォルト設定で出力する」

　　「デフォルト設定」のカット条件使用します。

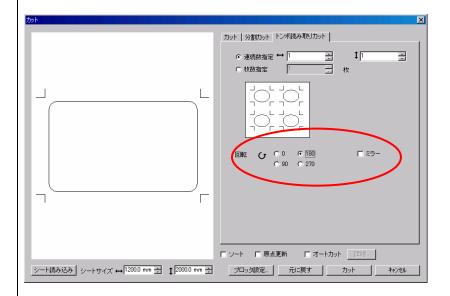
8 「出力ポート」の右にある >> ボタンをクリックすると『通信ポート』ダイアログボックスが表示します。

9 「通信ポート設定」は、プロッタの設定にあわせて【OK】ボタンをクリックします。

上記の設定値は、プロッタ出荷時の設定値です。

10 【カット】ボタンをクリックし、カットを開始します。

●巻き取り機能付きプリンタ（Mimaki　JVシリーズなど）でプリントしたものを、紙管に巻いてある場合。

Simple Studio で回転を 180°に設定すると、そのままトンボ連続読み取り機能搭載のプロッタにセットして連続カットできます。
（ロールを巻き戻す必要はありません。）

トンボを認識し、カットする(トンボ連続読み取り機能を搭載したプロッタを使う場合)

ハザイシートの連続カット

ヒント！

> トンボデータは、1 セットのみにしてください。
> シート内にトンボが数セットある場合は、連続してカットできません。

1 出力結果をプロッタにセットし、トンボ検出を行います。

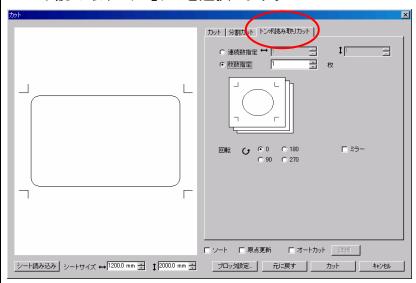
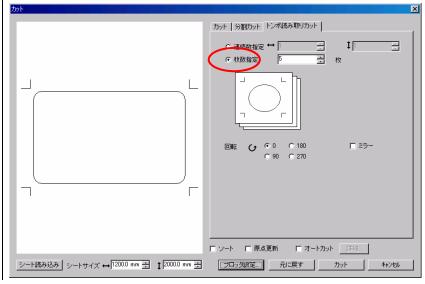
トンボ検出方法の詳細は、「プロッタ」の取扱説明書をご参照ください。

トンボ検出方法（セミオート方法）

1. プロッタで、「トンボケンシュツ」機能を有効にします。
   サイズ、形状など検出するトンボの設定を行います。
   「トンボ検出個数」は「1 テン」を選択します。
2. プリンタで出力したシートをプロッタに取り付け、シートセットレバーを奥側に倒します。
3. ジョグキーを押し、シート検出を行います。
4. ジョグキーでスポット LED を左図のエリア内に移動します。
5. ENTER HOLD ENTER/HOLD キーを押します。
6. トンボを検出し、ローカルモードになります。

※ＦＸの場合、２枚目以降もメディアの端から原点側のピンチローラ位置を同じようにセットするため、メディアの端から原点側のピンチローラ位置を確認してください。

2 ［カット］アイコン（ ）をクリックし、『カット』ダイアログボックスを表示します。（⇒52.69.73 ページ）

3 「トンボ読み取りカット」タブを選択します。

4 「枚数指定」を選択しカット枚数を指定します。

5 「プロッタ設定」を行います。

プロッタ設定の変更がなければ、６へ進んで下さい。
変更がある場合は（⇒56～57 ページ）

6 【OK】ボタンをクリックし、[カット]アイコン（ ）をクリックしてカットを開始します。

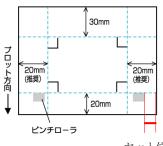
7 １枚目をカットしたら、プロッタのパネルに以下のメッセージが表示されます。

ｼｰﾄｺｳｶﾝ　ｼﾃｸﾀﾞｻｲ

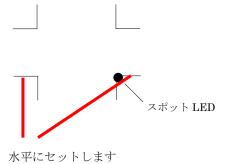
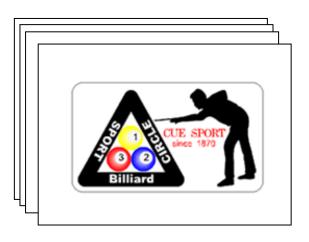
シートのセット方法

CG－FXシリーズ：

（⇒59 ページ）

１枚目のシートをはずし、２枚目のシートのメディア端と原点側のピンチローラ位置を１枚目と同じ位置にセットします。クランプレバーを下げるとトンボ検出を開始します。

CG－75ML：

１枚目のシートをはずし、スポットＬＥＤが右下のトンボの原点位置に来るように左横のトンボと水平に２枚目のシートをセットし、クランプレバーを下げます。

次に[ENTER/HOLD]キーを押すと、トンボ検出を開始します。

8 次のシートをセットすると、自動的にトンボを検出し、カットを行います。

Chapter 4

トレースしてカットしましょう

イラストをトレースしてカットしましょう

Simple Studio には、インポート又は TWAIN 入力した画像をトレースしてカットする機能が搭載されています。イラスト、ロゴ書体をカットするときに便利です。

TWAIN 入力で画像を取り込みます

1 **お手持ちのスキャナに、原稿をセットします。**

パソコンとのセットアップにつきましては、スキャナの取扱説明書をご覧ください。

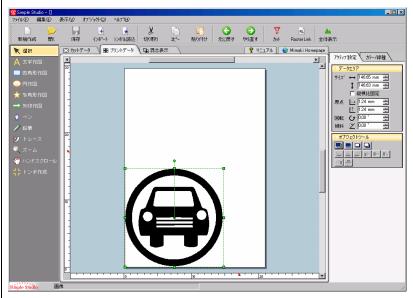
2 **[ファイル]ー[TWAIN 選択]をクリックすると『ソースの選択』ダイアログボックスが表示します。**

3 **お使いになる TWAIN 入力機器をクリックし、【選択】ボタンをクリックします。**（一度設定を行えば、毎回確認する必要はありません）

4 **[ファイル]ー[TWAIN 入力]をクリックすると TWAIN ドライバが起動します。**

スキャナ取り込みの操作につきましては、お手持ちのスキャナの取扱説明書をご覧ください。

5 **TWAIN ドライバのスキャン機能でデータを取り込み、TWAIN ドライバのダイアログを閉じます。**

6 スキャナで取り込んだ画像は、左下原点に配置されます。

7 [トレース]アイコン( )をクリックするとマウスの形状が変わります。

マウスの中心でトレースする色を選択します。

8 「アクティブ設定」タブ（アクティブ設定）をクリックし、「トレース」設定をしてください。

①トレース方法

■色指定

選択した色を抽出してトレースを行います。

■アウトライン

選択した色を除いてトレースを行います。

②精度

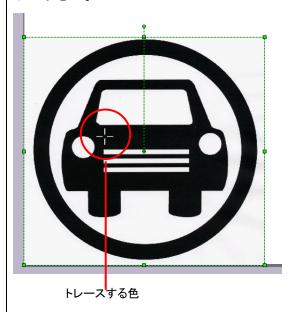
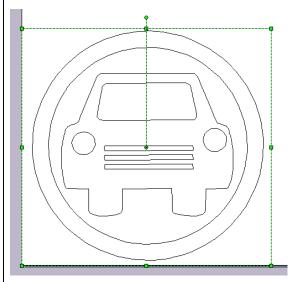
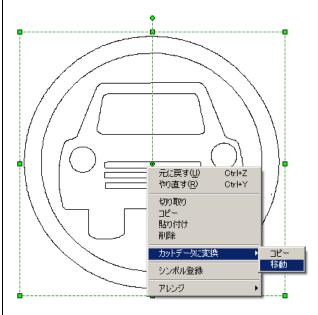
トレースする精度を３段階から選択します。

②抽出幅

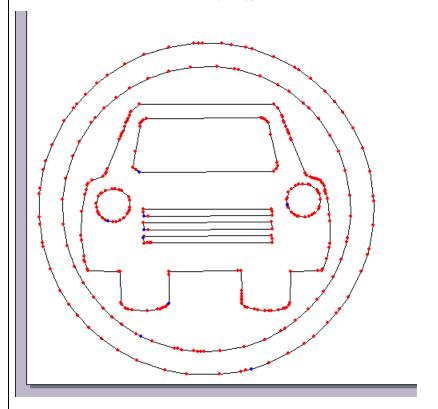
抽出する色の幅を設定します。

重要！

精度は精密にするほど細かくトレースされますが、データが大きくなり、必ずしも望ましいデータが作成されるとは限りません。

9 トレースする色がマウスの十字中央に位置するようにしてクリックして下さい。

10 トレースが完了すると、トレースしたデータが一般図形となって表示されます。

11 手順 9 のデータ上で右クリックし、[カットデータに変換]－[移動]をクリックします。
[オブジェクト]－[カットデータに変換]－[移動]を選択しても移動することが出来ます。

線分を修正します

1 線分修正を行うデータを選択し、[ペン]アイコン( )をクリックします。(⇒87 ページ)

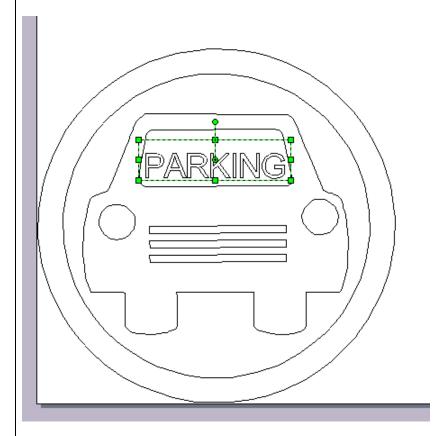
必要に応じて、ズームツールで修正する線分を拡大します。

ヒント!

ペンモードは一般図形のみ編集することができます。

2 線上にある点をドラッグし、線分を修正します。

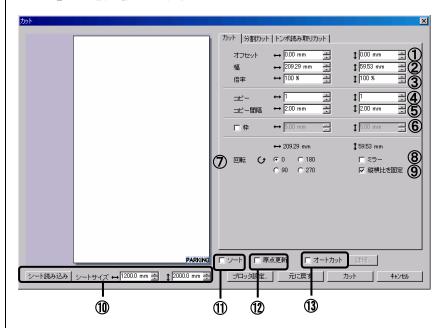
(⇒87 ページ)

選択したデータを複数カットする

1 選択ツール( )でカットするデータを選択します。

ヒント！

全データを選択する場合は、選択ツールで全データを囲うようにドラッグします。

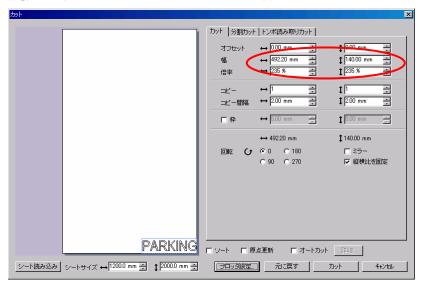
2 ［カット］アイコン（ ）をクリックすると『カット』ダイアログが表示されます。（⇒55.60.76 ページ）

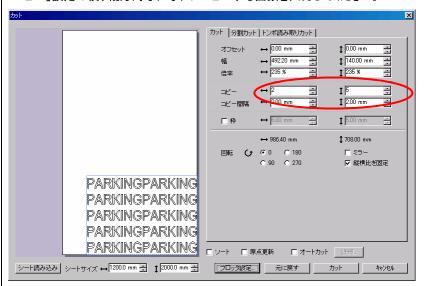
3 「カット」タブを選択します。

①オフセット	データを移動してカット位置を変更します。 （マイナス値は入力できません。）
②幅	用紙設定のサイズを数値で指定。
③倍率	用紙設定のサイズを倍率で指定。
④コピー	縦横方向にコピーする数指定
⑤コピー間隔	コピーの際、縦横間隔を指定。
⑥枠	カットデータに枠をつける場合は、チェックします。
⑦回転	全体を回転します。
⑧シート読み込み	プロッタにセットされているシートのサイズを測定します。
⑨縦横比を固定	
⑩シート読み込み	プロッタにセットされているシートのサイズを測定します。
⑪ソート	チェックを入れると、図面の下にあるデータからカットします。
⑫原点更新	カット終了時にプロッタの原点が更新されます。
⑬オートカット	1 行のカット終了後、メディア裁断機能のあるプロッタ（CG-FX、CJV30、TPC シリーズ）でメディアを裁断します。

4 【シートの読み込み】ボタンをクリックするとプロッタが検出した「シートサイズ」を表示します。

プロッタの原点を変更して再度シート読み込みを実行してもシートサイズは反映されません。

5 カットデータのサイズを変更する場合は、「幅」設定を変更します。

「幅」設定の横、縦方向それぞれにカットするサイズを指定して下さい。

6 カットする枚数をコピーします。

「コピー」設定の横、縦方向それぞれにコピーする回数を入力してください。

7 【プロッタ設定】ボタンをクリックすると、『プロッタ設定』ダイアログが表示します。

プロッタ設定の変更がなければ、8へ進んで下さい。

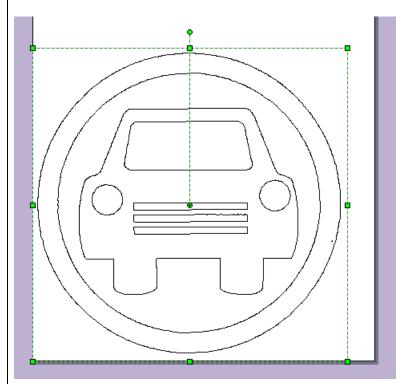
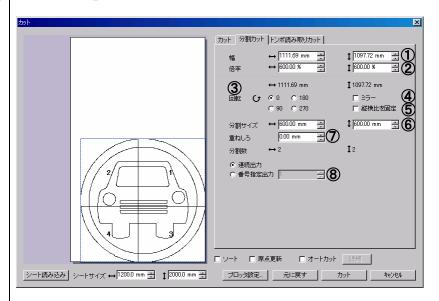
変更がある場合は(⇒56.57 ページ)

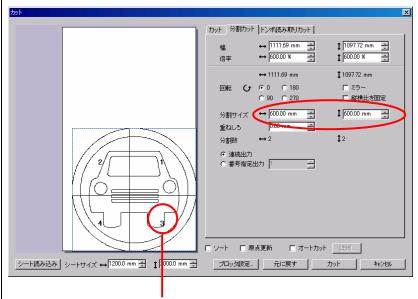
8 【OK】ボタンをクリックし、【カット】ボタンをクリックしてカットします。

選択したデータを分割カットする

Simple Studio には、１枚のシートに収まらないデータを分割してカットする分割カット機能を搭載しています。

1 [選択]ツール( )でカットするオブジェクトを選択します。

2 [カット]アイコン( )をクリックすると『カット』ダイアログが表示されます。(⇒55.60.72 ページ)

3 「分割カット」タブを選択します。

①幅	用紙設定のサイズを数値で指定します。
②倍率	用紙設定のサイズを倍率で指定します。
③回転	全体を回転します。
④ミラー	ミラー反転します。
⑤縦横比を固定	拡大時、縦横比を固定します。
⑥分割サイズ	分割するサイズを指定します。
⑦重ねしろ	重ねしろのサイズを指定します。
⑧出力設定	連続出力を選択すると、全データを連続カットします。また、番号指定出力を選択すると、プレビュー上の番号のみをカットします。

4 「分割サイズ」を縦横指定すると、分割プレビューが表示されます。

分割番号が自動で振られます

5 全てのデータを連続出力する場合は、「連続出力」にチェックを入れます。

また、一部のみ出力する場合は、「番号指定出力」を指定し、出力する番号を入力してください。番号指定での複数番号指定出力はできません。

6 【プロッタ設定】ボタンをクリックすると、『プロッタ設定』ダイアログボックスが表示されます。

プロッタ設定の変更がなければ、 7 へ進んで下さい。

変更がある場合は（⇒56.57 ページ）

7 【OK】ボタンをクリックし、【カット】ボタンをクリックしてカットを開始します。

8 **1枚目をカットしたら、「次のデータを出力します。カッティングシートの準備はいいですか？」というメッセージが表示されます。**

「番号指定出力」を指定した場合は、このメッセージは表示されず、以降の操作は必要ありません。

9 **次のデータをカットするシートをセットし、プロッタの操作により原点の設定を行います。**

「原点更新」にチェックが入っている場合は自動的に原点が更新されます。

10 **【OK】ボタンをクリックし、次のデータのカットを開始します。**

【キャンセル】ボタンをクリックした場合は、次のデータ以降のカットは行われず、終了します。

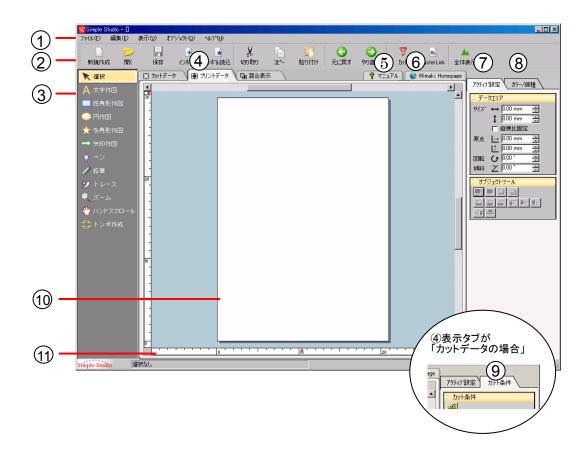
以降、分割したデータの数だけ８～１０の操作を繰り返します。

Chapter 5

機能説明

Simple Studio 機能説明

Simple Studio 画面について

Simple Studio の画面構成について説明します。

①メニューバー

「ファイル」「編集」「表示」「オブジェクト」「ヘルプ」の５グループに分かれています。
それぞれのメニューをクリックすると、Simple Studio の基本的な機能がメニュー形式で表示されます。

（⇒93〜120 ページ）

②メニューアイコン

メニュー機能の中から特に頻繁に使用する機能をメニューアイコンに格納してあります。アイコンをクリックするだけで実行することができますので効率的な作業ができます。

新規作成: 新規図面を作成します。
(⇒11.94 ページ)

開く: 保存されているファイルを開きます。ここで読み込み可能なファイルの種類は MDX 形式のみです。
(⇒95 ページ)

保存: 既存のファイルを上書き保存します。別ファイルとして保存する場合は［ファイル］－［名前を付けて保存］をクリックして下さい。
(⇒47.95 ページ)

インポート: 画像など、外部データを読み込み、配置します。
(⇒25.98 ページ)

シンボル読込: Simple Studio に附属のシンボルを読み込み、配置します。
(⇒99 ページ)

切り取り: 選択したオブジェクトを図面から切り取り、クリップボードにコピーします。
(⇒105 ページ)

コピー: 選択したオブジェクトをクリップボードにコピーします。
(⇒29.106 ページ)

貼り付け: クリップボードにコピーしてあるデータを、図面上に貼りつけます。
(⇒29.106 ページ)

元に戻す: 誤った操作を実行した直後に使用します。
(⇒105 ページ)

やり直す: ［編集］－［元に戻す］で取り消した作業を元に戻し、［元に戻す］コマンドを実行する前の作業状態にします。（⇒105 ページ）

カット: カッティングプロッタでカットします。（⇒55.60.72.76 ページ）

RasterLink: RasterLinkPro4 へ印刷データとカットデータを出力します。（⇒48 ページ）

全体表示: 図面上にあるデータ全体を表示します。（⇒37.107 ページ）

③ツールボックス

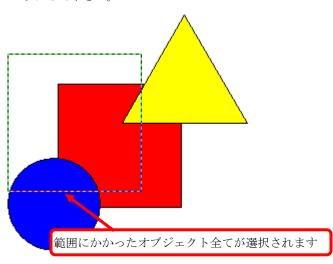
ツールボックスには、オブジェクト編集又は作成機能を中心にボタンが配置されています。

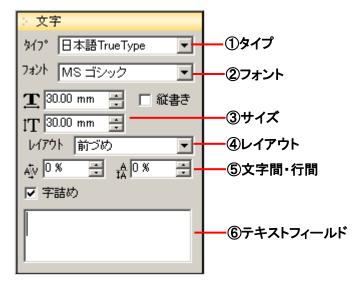
選択

文字や図形などのオブジェクトをクリック又はドラッグにて選択します。

《複数オブジェクトを選択する2通りの方法》

1．Shift キーを押しながら、任意のオブジェクトをクリックし選択してください。

2．選択する複数のオブジェクト全体を囲うようにしてドラッグして下さい。

A 文字作図

図面上でクリックします。「アクティブ設定」タブに「文字パネル」が表示されます。(⇒16～19 ページ)

① **タイプ**

フォントのタイプを選択します。②のフォントでは、ここで選択されたタイプに属するフォントが表示します。

② **フォント**

①で選択したタイプに属するフォントが表示されます。

③ **サイズ**

1文字の縦横のサイズを指定します。

④ **レイアウト**

複数行に渡った文字列のレイアウトを「前づめ」「中づめ」「後づめ」「均等」より選択します。

⑤ **文字間・行間**

文字又は行の間の余白を%にて指定します。

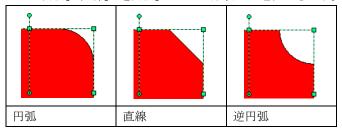
⑥ **テキストフィールド**

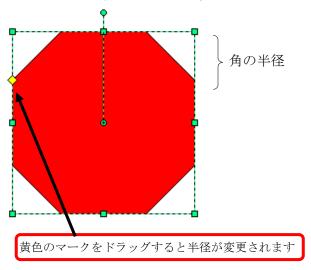
作成する文字を入力します。

四角形作図

画面上でドラッグしながら四角形を作成します。「アクティブ設定」タブに「四角形パネル」が表示されます。
(⇒41 ページ)

① 角の形状

「円弧」「直線」「逆円弧」の 3 つの形状から選択できます。

② 角の半径

半径を mm 単位にて設定します。

円作図

画面上でドラッグしながら円を作成します。Shiftキーを押しながらドラッグすると真円を描くことができます。
(⇒21 ページ)

多角形作図

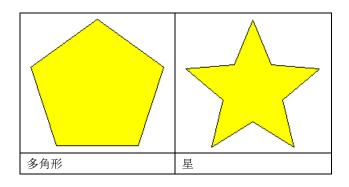
画面上でドラッグしながら多角形を作成します。「アクティブ設定」タブに「多角形パネル」が表示されます。
(⇒13 ページ)

① **頂点の数**

多角形の角の数を入力します。

② **形状**

多角形又は星のどちらかを選択します。

多角形	星

③ **角の割合**

形状で星を選択した場合、角の鋭角割合を設定します。

矢印作図

画面上でドラッグしながら矢印を作成します。「アクティブ設定」タブに「矢印パネル」が表示されます。

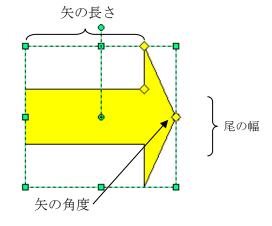
① **長さ**

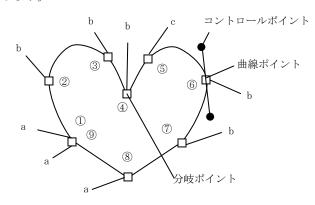
矢の長さを入力又は選択します。

② **矢の角度**

矢の角度を入力または選択します。

③ **尾の幅**

矢の角度を入力または選択します。

ペン

オブジェクトを選択していない状態からは「一般図形の作成」になり、一般図形を選択している状態からは「一般図形の編集」になります。(⇒70 ページ)
編集を行う場合はオブジェクトを一般図形に変換する必要があります。

《オブジェクトの作成》

(上図において①から⑨の順にクリックした時の例です)

a	クリック	直線ポイントを追加します
b	Ctrl +クリック	曲線ポイントを追加します
c	Shift +クリック	一つ前の点を分岐ポイントにし、ポイントを追加します

《オブジェクトの編集》

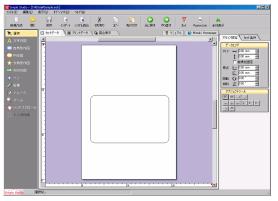
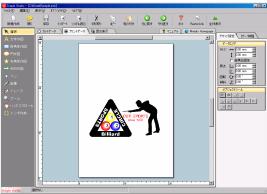
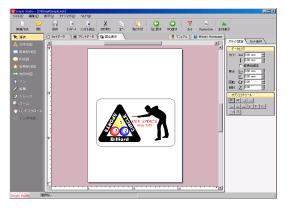
【1】ポイントをドラッグするとポイントが移動します
【2】ポイントを右クリックするとメニューが表示されます

分岐ポイント	線分同士が角度を付けてつなげられるポイントに変更します。
曲線ポイント	線分同士をなめらかにつなげるポイントに変更します
ポイント削除	ポイントを削除します
分割	線を切り離します
結合	線の始終点をつなげます
図形削除	図形を削除します

【3】線分をドラッグすると線分が移動します
【4】線分を右クリックするとメニューが表示されます

ポイント追加	ポイントを追加します
直線化	線分を直線に変更します
曲線化	線分を曲線に変更します
図形削除	図形を削除します

鉛筆	フリーハンドで、マウスでドラッグした通りに、自由にラインを描きます。ボタンを離した時点で終了します。
トレース	画像オブジェクトをトレースしてベクトルデータ（アウトライン）に変換します。 （⇒67 ページ）
ズーム	クリックした点を中心に拡大表示します。 また、ドラッグして範囲指定をすると、その指定した範囲を拡大表示します。 Altキーを押しながら実行すると縮小表示します。
ハンドスクロール	ドラッグすることにより、画面を上下左右自由にスクロールします。
トンボ作成	カットを実行する際に必要なトンボを作成します。 （⇒45 ページ） トンボオブジェクトは、「プリントデータ」タブを選択した時のみ作成できます。

④表示タブ

カットデータ:
カット対象データのみ表示します。カットデータでは、「カラー／線種」パネルが表示されません。

プリントデータ:
プリント対象データのみ表示します。

混合表示:
カットデータ及びプリントデータが混合表示されます。ただし、編集を行う場合はカットデータしか行えません。

⑤マニュアル

AcrobatReader が起動し、Simple Studio のマニュアルが表示されます。
マニュアルをご覧いただくためには、PDF ファイルの閲覧用ソフトが必要です。Acrobat Reader がインストールされていない場合は、「Simple Studio　CD-ROM」の起動メニューより【AdobeReader セットアップ】ボタンをクリックし、AcrobatReader をインストールしてからご覧下さい。

⑥MIMAKI Homepage

インターネットに接続が可能なパソコンの場合、株式会社ミマキエンジニアリングのホームページを表示します。
新機種など弊社の最新情報はこちらをご覧ください。

⑦アクティブ設定

通常は、「データエリア」と「オブジェクトツール」パネルのみ表示されています。選択されたオブジェクトに応じて、必要なパネルが表示されます。

①データエリア

選択されたオブジェクトの「サイズ」「原点」が表示されます。
「回転」「傾斜」に直接数値を入力して編集することができます。

②オブジェクトツール

［アレンジ］および［整列］と同様の機能です。
(⇒111 ページ)
(⇒112 ページ)

⑧カラー／線種

カラー／線種パネルは、編集モードが「プリントデータ」を選択している場合のみ表示され、プリント対象データのみ設定することができます。

①パレット
塗り込み、線の色を設定します。任意の色をクリックすると選択されている図形の塗り込み又は線の色が設定されます。
(⇒14.19 ページ)

②カレントカラー
塗り込み又は線の切り替えを行います。
また、パレットやＲＧＢ設定で指定した色が反映されます。
(⇒14.ページ)

③RGB設定
数値による RGB カラー値を設定します。

④グラデーション
グラデーションの種類と色を設定します。
(⇒22.23 ページ)

⑤ペン設定
線について、線幅、ジョイント、キャップを設定します。
(⇒15 ページ)

⑨カット条件

カット条件パネルは、編集モードが「カットデータ」または「混合表示」を選択している場合のみ表示され、カット対象データのみ設定することができます。

重要！

Raster Link へデータを出力する場合、本機能は Raster Link Pro4 Version2 以降で機能します。

⑩レイアウトエリア

用紙設定で設定したエリアが白く表示されます。
（⇒80 ページ）

⑪スケール

スケールが表示されます。
マウスを動かすと、X 軸、Y 軸ともに赤のマークが移動し、位置を示します。
（⇒80 ページ）

Chapter 6

メニュー説明

【ファイルメニュー】

このコマンドを選択すると『用紙』ダイアログボックスが表示されます。それぞれ詳細を設定し、【OK】ボタンをクリックすると新規の図面が作成されます。(⇒11 ページ)

《ユーザー定義サイズ設定方法》

タイトルとサイズを入力し【登録】ボタンをクリックします。

保存されているファイルを選択して【開く】ボタンをクリックします。

テンプレートを開く

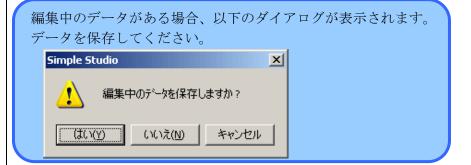
左のカテゴリーをクリックすると、それぞれに収納されているテンプレートが右に表示されます。

1 **左のカテゴリー一覧からカテゴリーを選択します。**

2 **右に表示されたテンプレートから編集するテンプレートを選択し【OK】ボタンをクリックします。**

重要！

編集中のデータがある場合、以下のダイアログが表示されます。データを保存してください。

上書き保存 (Ctrl+S)

編集中のファイルを上書き保存します。

重要！

上書き保存では、上書き確認の警告が出ません。上書き保存を実行すると、保存する前のデータはなくなり、新たなファイルとして保存されます。

名前をつけて保存

作成した図面を新規に名前を付けて保存します。

ファイル名を入力し【保存】ボタンをクリックします。

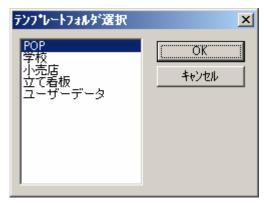
重要！

保存可能なファイルの種類は MDX 形式のみです。

テンプレートとして保存

よく使用するデザインなどは、テンプレートとして保存することができます。

保存するフォルダを選択し、【ＯＫ】ボタンをクリックします。

インポート

画像など、外部データを読み込みます。

配置可能なファイルの種類は BMP・JPG・WMF・EMF・MDX です。(⇒25 ページ)

重要！

WMF、EMF については形式の違いにより一部読み込めないことがあります。

シンボルデータを読み込みます。

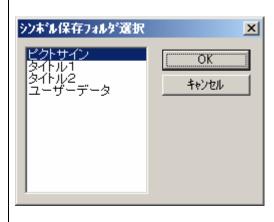
1　**左のカテゴリー一覧からカテゴリーを選択します。**

2　**右に表示されたシンボルから読み込むシンボルを選択し、【OK】ボタンをクリックします。**

3　**使用するデータタイプを選択して【OK】ボタンをクリックします。**

シンボル登録

作成したデータをシンボルとして登録します。ここでシンボル登録されたデータは、今後シンボル読込にて読み込むことができます。

1 **シンボルを登録するフォルダを選択します。**

TWAIN－TWAIN 入力

TWAIN 入力コマンドを実行すると、スキャナ等 TWAIN 対応機器の画像取り込みが開始されます。取り込み終了後、データが図面に貼り付きます。

（⇒65 ページ）

重要！

スキャナ等取り込みの際には、各メーカーのマニュアルをご覧下さい。

TWAIN－TWAIN 選択

TWAIN 選択コマンドを実行すると、選択可能な TWAIN 機器が表示されます。TWAIN 機器を選択後、【選択】ボタンをクリックします。

用紙設定

（⇒11.91 ページ）

用紙設定では、下記の内容を実行します。

- 用紙の選択
- ユーザー定義サイズの新規登録
- 登録されているユーザー定義サイズの変更
- 登録されているユーザー定義サイズの削除

通常使うプリンタに設定されているプリンタドライバを利用して印刷します。お使いのプリンタの『印刷』ダイアログボックスが表示されます。

重要！

画像やメタファイルオブジェクトを含む図面をプリントするとオブジェクトの解像度により画質が悪くなる場合があります。

『カット』ダイアログボックスが表示されます。

（⇒55.60.72.76 ページ）

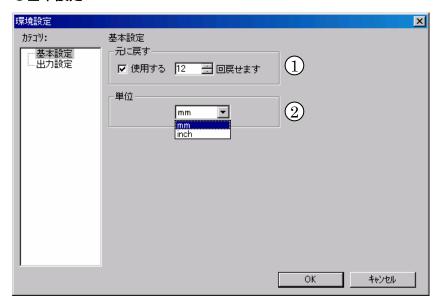
RasterLink

RasterLink を使用してのプリントやカットを行います。

（⇒48 ページ）

環境設定

Simple Studio の動作環境を設定します。「基本設定」「カット設定」に分かれていますので、左のメニューよりどちらか選択してください。

●基本設定

①元に戻す

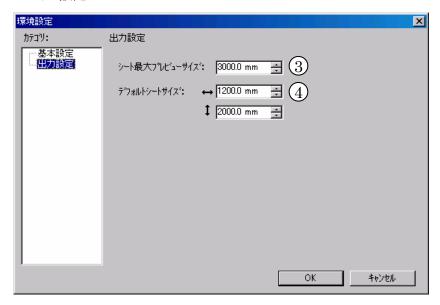
「元に戻す」の有効設定および、元に戻す場合の回数を設定します。チェックＯＮの場合、「元に戻す」コマンドが有効になります。

重要！

元に戻す回数を多くすると相当のメモリーが使用され、ソフトウエアの動作が遅くなる可能性があります。

②単位

Simple Studio で使用する長さの単位を選択します。

●カット設定

③シート最大プレビューサイズ

『カット』ダイアログボックスで表示されるプレビューの最大サイズを設定します。

④デフォルトシートサイズ

③

『カット』ダイアログボックスを開いたときのシートサイズを設定します。

終了 (Alt+F4)

このコマンドを選択すると Simple Studio が終了します。

編集中の図面がある場合には、保存確認のウインドウが開きます。保存して終了する場合は【はい】、保存しないで終了する場合は【いいえ】、終了を取り止める場合は【キャンセル】をクリックします。

【編集メニュー】

誤った操作を実行した直後に使用します。

又、[元に戻す] コマンドを実行後、それを取り消す場合には [編集] ー [やり直す] を実行します。

重要！

元に戻すコマンドは、[ファイル] ー [環境設定] にて設定した回数以上、さかのぼって元に戻すことはできません。

[編集] ー [元に戻す] で取り消した作業を元に戻し、[元に戻す] コマンドを実行する前の作業状態にします。

重要！

このコマンドは、[編集] ー [元に戻す] を実行後有効となります。元に戻すコマンドを使用していない場合は、グレーで表示され選択できません。

切り取り (Ctrl+X)

選択したオブジェクトを図面から切り取り、クリップボードにコピーします。ここで切り取ったデータは [編集] ー [貼り付け] で貼り付けることができます。

オブジェクトを選択してから、切り取りコマンドを実行して下さい。

コピー（Ctrl+C）

選択したオブジェクトをクリップボードにコピーします。ここでコピーしたデータは［編集］－［貼り付け］で貼り付けることができます。

オブジェクトを選択してから、コピーコマンドを実行して下さい。

貼り付け（Ctrl+V）

他のアプリケーション、または Simple Studio で作成したデータで、あらかじめクリップボードにコピーしてあるデータを、図面上に貼り付けます。

クリップボードにデータがない場合や互換性のないデータの場合には実行できません。

削除（Del）

選択したオブジェクトを削除します。

すべて選択（Ctrl+A）

図面上のオブジェクトをすべて選択します。

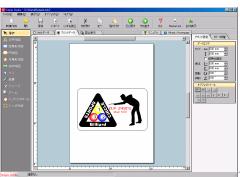
ヒント！

「プリントデータ」タブを選択時は、プリントデータのみが選択されます。
また、「カットデータ」「混合データ」タブを選択時は、カットデータのみが選択されます。

【表示メニュー】

全体表示 (Ctrl+O)

ズームインをして図面の一部しか表示されていない場合、またズームアウトで図面を縮小表示されている場合に、このコマンドで図面上にあるデータ全体を表示します。

ズームインで拡大表示している図面

全体表示実行後の図面

ズームイン （Ctrl++）

画面全体をクリックする毎に拡大表示します。

ヒント！

任意の場所を指定してクリックする場合は、ツールボックスの「ズームイン」を選択し、拡大表示する場所を囲ってください。

ズームアウト （Ctrl+－）

図面全体を縮小表示します。
全体的な仕上がりを確認しながら編集・作成をする時には、こちらのズームアウト機能で全体的に縮小表示すると効率よく作業をすることができます。

オブジェクトビュー （Ctrl+９）

選択したオブジェクトを拡大表示します。
目的のオブジェクトの編集を行う時には、このオブジェクトビューを使用すると選択したオブジェクトを中心に拡大表示され、効率よく編集することができます。

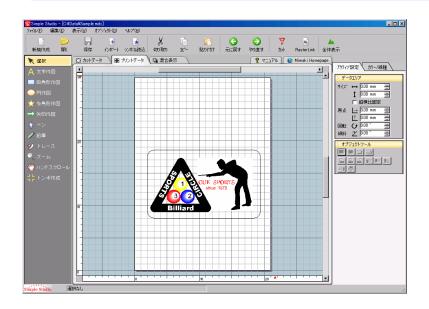
ヒント！

オブジェクトビューでは、選択したオブジェクトを表示画面の一杯まで拡大します。それ以上の拡大をする場合は、「ズームイン」をご使用ください。

グリッド表示

グリッドの表示・非表示の切り替えをおこないます。「グリッドを表示」をＯＮにすると、グリッドが表示されます。

ヒント！

グリッドサイズ・表示の際の形状は、[表示]－[グリッド設定]にて行います。

グリッドへスナップ

「グリッドへスナップ」をＯＮにすると、オブジェクトを編集する際、オブジェクトの移動先やコピー先をグリッドに吸い付けて配置することができ、レイアウト作業を容易にします。

ヒント！

グリッドサイズの設定は、[表示]－[グリッド設定]にて行います。

グリッド設定

グリッドの設定を行います。

①グリッドを表示

チェック ON の場合、グリッドを表示します。

②グリッドへスナップ

チェック ON の場合、グリッドへスナップを有効にします。

③オプション

グリッドを表示する際のグリッドの形状、グリッドのサイズ、色を設定します。

カットデータ表示

「カットデータ」タブを表示させた場合と同様です。

(⇒89 ページ)

プリントデータ表示

「プリントデータ」タブを表示させた場合と同様です。

(⇒89 ページ)

混合表示

「混合データ」タブを表示させた場合と同様です。

(⇒89 ページ)

【オブジェクトメニュー】

アレンジ

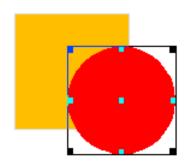
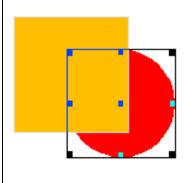
（⇒46 ページ）

選択したオブジェクトの重ね順を変更します。オブジェクトを選択し、下記のいずれかのアレンジ方法をクリックします。

- 最前面へ
- 前面へ
- 最背面へ
- 背面へ

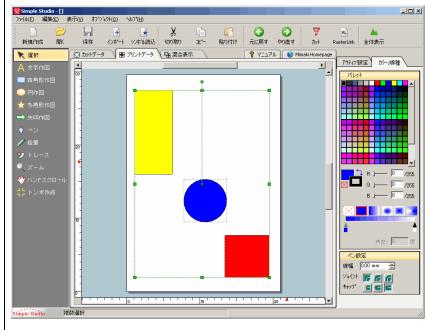
ヒント！

※最前面に移動する場合は手順の２で［最前面へ］をクリックしてください。
※「前面へ」又は「背面へ」を選択すると、１つずつ背面又は前面に移動します。

1 重ね順を変更するオブジェクトを選択します。

2 [オブジェクト]－[アレンジ]－[最背面へ]をクリックします。選択したオブジェクトが最背面に移動されます。

整列

複数のオブジェクトを横軸または縦軸に沿うように揃えて配置します。

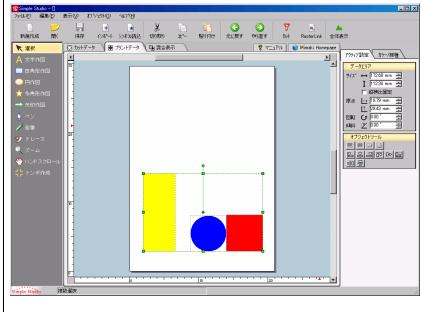
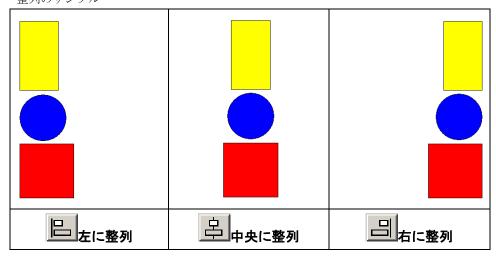
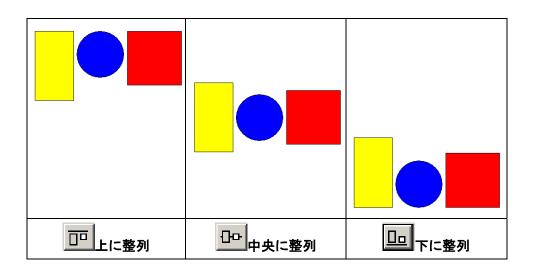
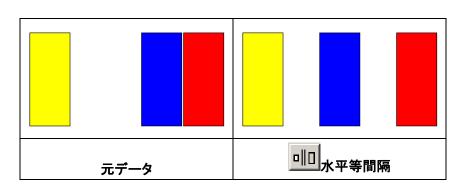
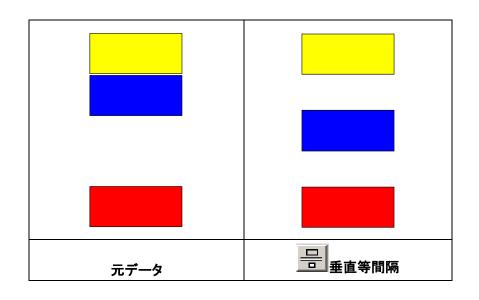
重要！ 整列は複数のオブジェクトを選択している場合のみ有効となります。

1 整列を実行する複数のオブジェクトを選択します。

2 **整列アイコンをクリックします**

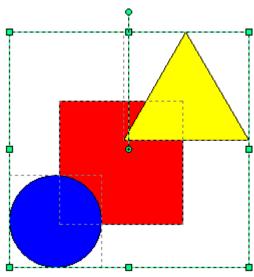
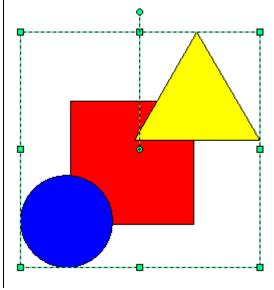
整列のサンプル

上に整列
中央に整列
下に整列

元データ
水平等間隔

元データ
垂直等間隔

グループ（Ctrl+G）

複数のオブジェクトをそれぞれの属性を保持したままでグループ化します。グループ化実行後は、一つのオブジェクトとして編集することができます。

1 **グループ化するオブジェクトを全て選択します。**

2 **[オブジェクト]－[グループ]をクリックします。**

グループ解除（Ctrl+Shift+G）

グループオブジェクトを解散し、元の複数のオブジェクトに戻します。

1 **解除するグループオブジェクトを選択します。**

2 **[オブジェクト]－[グループ解除]をクリックします。**

プリントデータに変換

(⇒43 ページ)

選択したオブジェクトをプリントデータに変換します。変換方法には「コピー」と「移動」がありますので、どちらかの変換方法を選択してください。

カットデータに変換

(⇒69 ページ)

選択したオブジェクトをカットデータに変換します。変換方法には「コピー」と「移動」がありますので、どちらかの変換方法を選択してください。

一般図形に変換

メタファイル、文字、グループオブジェクトをグループ化された一般図形に変換します。四角形、楕円形、多角形、矢印などのオブジェクトは一般図形に変換します。

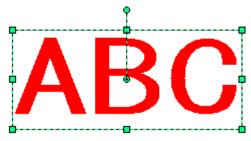
ヒント！

メタファイルは、図形及び文字の基本情報（太字、斜体情報は除く）のみが変換されます。

複合図形に変換

一般図形のみを複数選択した状態又は、一般図形でのみグループ化したオブジェクトを選択した状態でこのコマンドを実行すると、複合化された一般図形に変換されます。

カス取り線作成

カットしたシールの不要な部分をはがしやすくするために、オブジェクト周りにカット線（切り込み）を入れておくと便利です。ここでは、オブジェクト外に入れるカット線を「カス取り線」と呼びます。カス取り線作成では、カット線とフレーム（枠）を作成します。

1 **オブジェクトを選択します。**

2 **[オブジェクト]－[カス取り線作成]をクリックします。**

3 **カス取り線を設定します。**

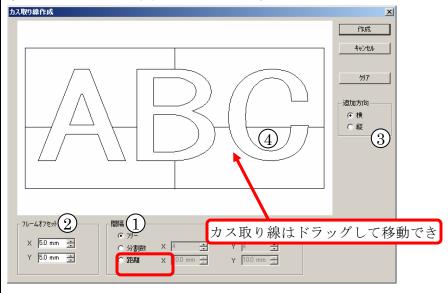
(1) フリー設定

①「間隔」から「フリー」を選択します。

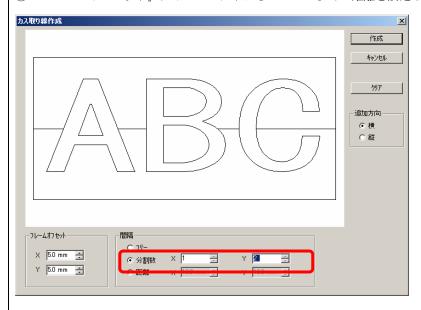
②「フレームオフセット」にオブジェクトからフレーム（枠）までの距離を設定します。（下図では、フレームまでの縦方向距離を 5mm に設定しています）

※「フレームオフセット」を 0 にしてもカス取り線にすき間ができる場合は、[オブジェクト] － [一般図形に変換] を行うとすき間がなくなります。

③「追加方法」でカス取り線を作成する方向（横または縦）を選択します。

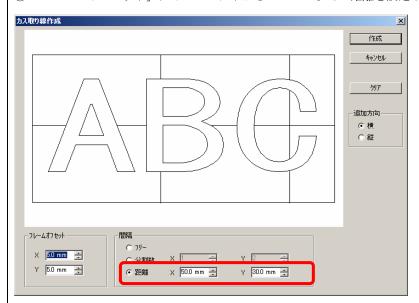
④カス取り線を作成する位置でクリックします。

⑵ 分割数設定

①「間隔」から「分割数」を設定します。横、縦それぞれに分割する数を選択、または入力します。

②「フレームオフセット」にオブジェクトからフレームまでの距離を設定します。

(3) 距離設定

①「間隔」から「距離」を設定します。

横、縦それぞれのカット線の間隔を選択、または入力します。

②「フレームオフセット」にオブジェクトからフレームまでの距離を設定します。

ヒント！

【キャンセル】をクリックすると、カス取り線を作成せずに Simple Studio の画面に戻ります。【クリア】をクリックすると、フレーム以外の全てのカス取り線を消去します。

ヒント！

カス取り線を１本ずつ消去する場合は、「間隔」で「フリー」を選択し、消去する線を画面の端までドラッグします。

4 **設定終了後【作成】ボタンをクリックします。**

輪郭作成

選択したオブジェクトから輪郭データを作成します。

例えば「プリントをするデータの外側 2mm の所でカットしたい」というような場合、輪郭作成を行うと、プリントをするオブジェクトを元にしてカットデータを作成する事ができます。

オフセット量	選択オブジェクトから、作成する輪郭図形までの距離を指定します。
オフセット	輪郭図形を選択オブジェクトの外側に作成するか内側に作成するかを指定します。
ジョイント	輪郭図形のカドの部分の形状を指定します。

【ヘルプメニュー】

ﾍﾙﾌﾟ(H)
ﾏﾆｭｱﾙを開く
ﾊﾞｰｼﾞｮﾝ情報(A)...

マニュアルを開く

マニュアルタブをクリックした時と同様に、PDF 形式のマニュアルが表示されます。

バージョン情報

お使いの Simple Studio のバージョン情報を表示します。サポート電話をご利用の際には、このバージョン情報をあらかじめ調べてからお電話をお願いします。